

戸田康之さん『組体操』（12月6日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。  
今日のお話は、組体操です。

組体操、私も昔、小学生の頃にやったことがあります。体操着を着て、はだして、太鼓の音に合わせてポーズを変え、自分の脚の上に人が立ったりもします。扇や、ピラミッドなどの組体操がありましたね。今は、危ないということでやる学校が減ってきていますが、小学6年生のうちの娘が通う小学校では運動会で組体操をやるということで、楽しみにしていました。

運動会当日。私もビデオカメラを準備し、他の人たちも大勢ビデオカメラを構えていました。そして組体操が始まったのですが、全員イスを持って入場してきました。1人1脚イスを持っています。これまで組体操の時にイスなんて使わなかったですよ。身体ひとつでいろいろな形を作っていました。最初に見た時にはなんでイスなんて持っているのかと思いましたが、今はコロナだからこの組体操のやり方なんだと分かりました。

コロナ禍ですから、人の身体に接触しないんです。感染予防のため、人との接触をしません。誰かの身体の上にのぼったりもしません。ではどうするかというと、イスを使うんです。人の上に乗るのではなく、イスの上にのぼってポーズをとります。前の人は四つん這いになっているだけです。その後ろにイスを置き、イスの上に人が立つんです。

また、扇の時も手をつなぎません。真ん中の人は直立で手を広げるだけ。端の人も斜めにポーズをとるだけだったんです。

コロナ禍ならではの新しいやり方の新しい組体操を初めて見ました。コロナ禍の新しい生活様式で、マスクをしたり、人との距離をとったりするようになりましたよね。組体操もコロナによる新しい組体操なんだなあと思いました。

今後、組体操がイスを使ったやり方によって変わっていくのかもしれませんが。